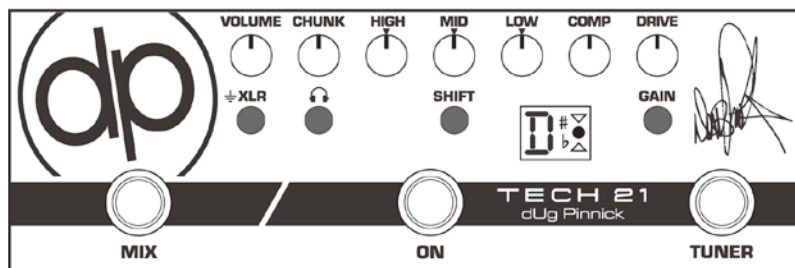




dUg Pinnick
Signature DP-3X
TECH 21・NYC



USER GUIDE

1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
本製品の性能を最大限に引き出すためにご使用前に必ず内容をよくお読みください。
dUg Pinnick Signature DP-3X ペダルは、彼の Tech 21 Ultra Bass 1000 Signature ヘッドを超コンパクトに改造したものです。どちらも元々 80 年代に開発されたサウンドの dUg を再現し、ハイエンドのディストーションとローエンドのベースを融合させています。2 つのモードを備えた DP-3X は、dUg ならではのトーンを実現するだけでなく、伝統的なベースアンプサウンドも再現可能です。DUG はかつてエフェクトでいっぱいになったラックとギターアンプとベースアンプと一緒にツアーを回っていました。そのフル装備が持ち運べない場合への備えと、ギアをさらに効率化したいという思いから、dUg はオールアナログの DP-3X ペダルを Tech21 と共同開発しました。ヨーロッパツアーで DP-3X をベータテストしたところ、dUg は会場ごとに異なるセッティングに出くわしました。しかし、どのアンプがステージ上にあっても、dUg は彼オリジナルのトーンを演奏することが出来ました。DUG によると、「小さな車、ギター、ドラムスティックだけを車に積み込みました。それでおしまい。どんな環境でも [DP-3X] は私が望むトーンを私に与えてくれました。これはあな自身の調子を整えるために設計されています。思うままにコントロールして自分のサウンドを見つけてほしい。」

2 使用上の注意

- ◆ アクティブベースで使うアクティブエレクトロニクスはより高い出力を持ち、歪ませた際に、通常より多くのノイズを生成します。軽減するには、ゲインスイッチをオフにして、必要に応じて本体のボリュームを下げることをお勧めします。改善しない場合は EQ 設定をフラットしたり、Drive や Comp コントロールを下げたりしてみてください。
- ◆ ベースの出力が非常に高い場合は、COMP の設定を低くしても非常に強く効果がでます。また、設定値を大きくすることでフィードバック（ハウリング）することがあります。
- ◆ ヘッドフォンを通して聞くとサウンドが明るく聞こえる場合があります。コントロールを調整してください。ミキサーやアンプに直接接続する場合は、ヘッドフォンスイッチをオフにするのを忘れないでください。信号がクリップされる可能性があります。
- ◆ 本機のノイズレベルは非常に低く設計されていますが、入力ソースから発生するノイズを増幅する可能性があります。本機のコントロールは異常に敏感であり、高レベルの出力を出すために最大レベルの入力を必要としません。本機に入るノイズを最小限に抑えるために、エフェクターは、トーンコントロールをフラットに設定してください。もしブーストする必要があるならば、ゆっくりと控えめに設定してください。シングルコイルピックアップはノイズを生成する可能性が高くなります。しっかりとノイズ対策を行ってください。
- ◆ 演奏テクニックのダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常、本体を本機に直接接続してください。
その他エフェクトを使用する際は一般的な使用法として、
本機の前：コンプレッサー、エンベロープフィルター、ワウ等
本機の後：コーラス、ディストーション（その他）、エコー、リバーブ、ボリュームペダル等
をおすすめしますが、お好みに合わせて配置してください。
- ◆ バッファードバイパスは、「トゥルーバイパス」のポップとクリック、および複数のペダルを接続したときの高音痩せなどの欠点や、スイッチング回路や長いケーブルによる信号のロスを軽減します。

3 接続

ベースアンプとの接続：

SansAmp の出力を直接パワーアンプ入力（別名「エフェクトリターン」（該当する場合））の入力に接続します。アンプの各コントロールが無効になります。

注意：

本体のボリュームが 0 にしてから接続してください。
アンプをオンにし、それからゆっくりと本体の音量を上げます。全体的に大きすぎる場合は、1/4" Out Boost スイッチがオフ（上）になっていることを確認してから、それに応じてプリセットを編集します。音量が不足している場合は、1/4" Out Boost スイッチを押し込んで 10dB を追加します。

3 接続

SansAmp をアンプのフロント入力に接続することもできますが、アンプの入力が過負荷にならないように、SansAmp のレベルを必ずユニティゲインに近づけてください。

フロント入力を使用するときにアンプを設定するためのヒント：

1. 低ゲインチャンネル入力に接続します。
2. Bright スイッチをオフにします。
3. プレゼンスコントロール（該当する場合）を 12 時以下に設定します。
4. トーンコントロールをできるだけフラットに設定します。

ダイレクトにレコーディングする：

ミキサー / レコーダーの入力に直接接続して、SansAmp のオンボードサウンドを使用することができます。ミキサー / レコーダーのようなフルレンジシステムでは幅広い周波数を録音 / 再生が可能です。SansAmp の EQ 設定を調整してベストなサウンドを見つけてください。

4 入出力

電源を入れる順番について：

本機の電源を最初にオンにし、最後にオフにします。機器を接続または切断するときは、スピーカーを損傷する可能性のある「ポップ」を防ぐために、プラグの抜き差しを行う前に、必ずミキシングボードをミュートにするかアンプの音量を下げてください。

注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。

入力レベルについて：

本機はベース本体、ディストーションペダルのアウトプットなど、インストゥルメントレベルの入力信号を入力するように設計されています。想定の入力信号レベルはおよそ -10dB / 250mV です。（一般的なエレキギターに近い数値）

注意：高出力なピックアップは本機のゲイン構造を増加させます。

INPUT：

1/4" 1M Ω 、インストゥルメントレベル。

1/4" フォン出力：

アンバランスド 1K Ω 出力。

EQ やエフェクトのかかった、バイパスされた信号をベースアンプまたはパワーアンプに送ります。

BALANCED XLR OUTPUT & GROUND CONNECT スイッチ ()：

このスイッチを ON にする () とグラウンドが接続されます。また、このスイッチを OFF にする () と本機のグラウンドはカットされた状態になり、接続されているミキサー等のグラウンドに接続されていない状態になります。

5 2つのモード

クリーン / フルレンジモード：

アンバランスド 1K Ω 出力。EQ やエフェクトのかかった、バイパスされた信号を送ります。(DRIVE ノブと、CHUNK ノブは無効です。)

ミックスモード：

MIX フットスイッチを踏み込むことで切り替わるモードです。

アンバランスド 1K Ω 出力。上記に加えディストーションを加える DRIVE ノブと、超高音域をの歪みを加える CHUNK ノブが有効になります。

6 コントロール

GAIN スイッチ：

+10dB のゲインブーストスイッチです。dUg は常に ON です。ミックスモードでは歪みとコンプレッションが増加します。また、ピックアップに合わせてプリアンプを設定することもできます。たとえば、低出力のパッシブピックアップの場合、Gain を有効にしてパンチの効いたサウンドを演出できます。逆に、高出力のアクティブピックアップの場合は、Gain をオフにするとよりクリーンなサウンドになります。もちろん、Gain を有効にした状態で高出力のピックアップを使用することで、歪みを意図的に演出することもできます。

DRIVE (MIX モードのみ有効)：

ゲインとオーバードライブの量を調整します。

12 時までの位置では、音量とオーバードライブが増加し、12 時以降の位置ではオーバードライブが増加します。

COMP：

50 年代から 60 年代ごろのコンプレッサーを再現した、暖かく、クリアで、音楽的なコンプレッションを演出します。ソフトでかろうじてわかるようなものから超コンプレッション、無限のサステインまで幅広く調節が可能です。

LOW & HIGH：

EQ セクションは、スタジオミキシングボードのように、あなたに完全な EQ コントロールを与えます。カットするパッシブトーンコントロールとは異なり、12 時を 0 として $\pm 18\text{dB}$ カットまたはブーストします。Low & High のクロスオーバー周波数は 1kHz です。

MID & MID SHIFT スイッチ：

MID は中音域を 12 時を 0 として $\pm 18\text{dB}$ カットまたはブーストします。

MID SHIFT は MID ノブの調節周波数を、325 Hz () か 700 Hz () で選択できます。

CHUNK (MIX モードのみ有効)：

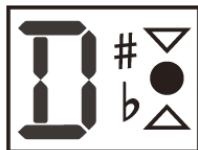
dUg の熱い要望に応じて実装された、超高音域の歪みのレベルを決定して、アタックとレスポンスを劇的に向上します。全体の歪み量を決定する DRIVE と連動します。

VOLUME：

全体の出力レベルを調整します。

7 その他の機能

クロマチックチューナー：



TUNER スイッチを踏み込むことでクロマチックチューナーが起動し、入力信号をミュート、チューナーウィンドウの LED が点灯します。緑色のランプが点灯している場合は、チューニングが合っています。赤い矢印が出た場合は
上向き矢印 = フラットしています。ピッチを上げてください。
下向き矢印 = シャープしています。ピッチを下げてください。

目的の音に近づくと、矢印は速く点滅し、チューニングが合うと消えます。

その後緑色のランプが点灯しチューニング完了です。

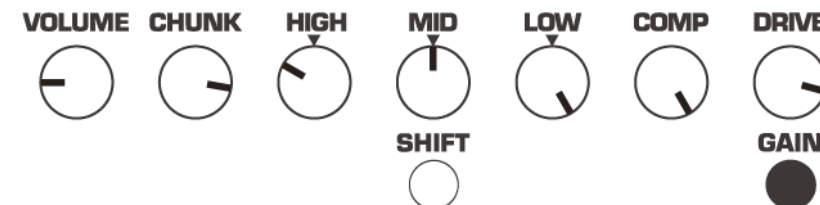
ヘッドフォンスイッチ (🎧)：

1/4 “ 出力端子がヘッドフォン用出力に替わります。音量が上がり、ヘッドフォンの左右ともに聴こえるようになります。

注意：ミキサーやベースアンプの入力に接続する場合は、この機能を解除してください。

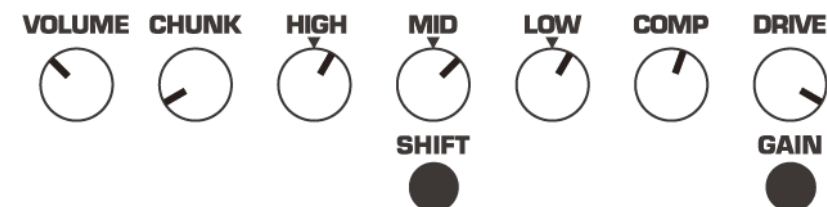
ON (IN) ● OFF (OUT) ○

dUg Pinnick's Personal Setting*

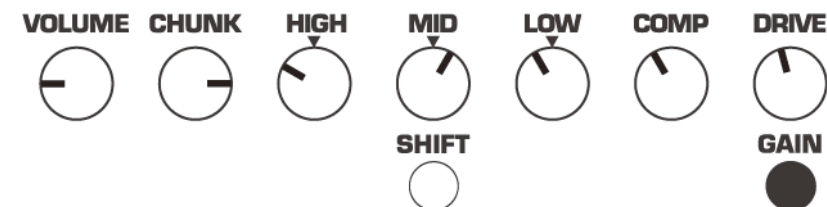


*Will vary depending on the venue and what other gear is being used. It is intended solely as a starting point.

MUSE/Hysteria-style



YES, Roundabout-style



SAMPLE SETTINGS

ON (IN) ☒ OFF (OUT) ☐

Cheap Trick, Tom Petersson-style

VOLUME

CHUNK

HIGH

MID

SHIFT

☒

LOW

COMP

DRIVE

GAIN

☒

Paul McCartney-style

VOLUME

CHUNK

HIGH

MID

SHIFT

☒

LOW

COMP

DRIVE

GAIN

☒

Smooth Studio

VOLUME

CHUNK

HIGH

MID

SHIFT

☐

LOW

COMP

DRIVE

GAIN

☐